

河川事業の再評価説明資料

〔阿賀野川直轄河川改修〕

平成16年8月
北陸地方整備局

事業再評価説明資料

目 次

1 河川の概要	
1)流域の概要	1
2)主要な災害	3
2 事業の経緯	
1)事業の経緯	5
2)治水計画の概要	6
3)阿賀野川の改修計画について	6
4)改修による整備状況	7
5)現在実施中の主要事業の内容及び進捗状況	8
6)現状での主な課題	11
3 事業の投資効果	
1)費用対効果	14
2)これまでに行った事業の効果	20
3)コスト縮減の取り組み	23
4 事業を巡る社会情勢等	
1)地域の開発状況	24
2)地域の協力体制	25
3)関連事業との整合	25
5 対応方針(原案)	27

1 河川の概要

1) 流域の概要

水	源:阿賀野川(荒海山 標高 1,580m)
流域面積	:7,710 km ² (新潟県 1,660 km ² 福島県 6,050 km ²)
幹川流路延長	:210 km(新潟県 87 km)
大臣管理区間	:39.2 km(阿賀野川 34.6 km、早出川 4.6 km)
流域内市町村	:11 市町(新潟県)
	新潟市、新津市、五泉市、豊栄市、新発田市、阿賀野市 他 5 町
流域市町人口	:新潟市 53 万人 新津市 6.6 万人 五泉市 3.8 万人 豊栄市 4.9 万人 阿賀野市 4.8 万人
年平均降水量	:1,776 mm(新潟 理科年表 H16 年版)

阿賀野川流域図





阿賀野川河口部 (河口部)



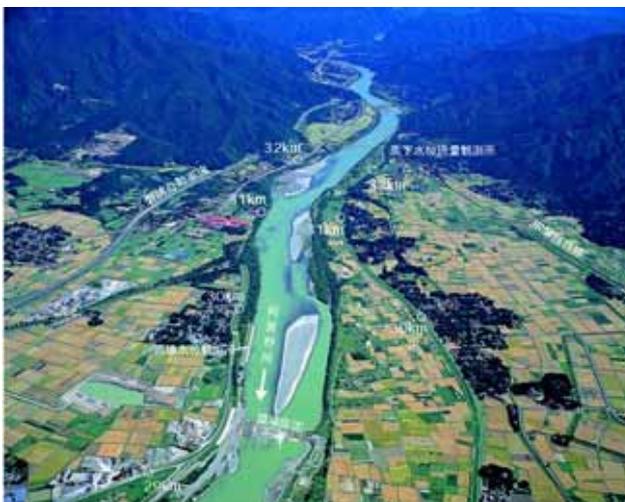
阿賀野川中流部 (13 km付近)



早出川合流点付近 (21 km付近)



阿賀野川上流部 (25 km付近)



阿賀野川上流部 (29 km付近)



早出川捷水路

2) 主要な災害

1573年(天正元年)から1912年(明治45年)までの340年間に大きい被害を出した洪水は65回を数え、5年に1回は大きい水害に遭っていた。戦後の主な洪水としては昭和31年7月、昭和33年9月、昭和53年6月、昭和56年6月、昭和57年9月など頻りに大きな洪水が発生し、流域内は甚大な被害に見舞われた。最近では、平成10年8月、平成14年7月に大きな洪水が発生し内水被害や中小河川の氾濫、老朽化した河川工作物の被害などが多く発生した。

主要洪水一覧表

発生年月日	洪水流量 (馬下地点)	被害の状況(浸水面積、浸水戸数等)
T2.8.27	-	大洪水(木津切れ) (木津:約200m破堤、流失家屋1戸、浸水家屋1,440戸) (論瀬:約300m破堤、流失家屋2戸、浸水家屋340戸) (京ヶ瀬:約80m破堤)
S31.7.17 (梅雨前線)	8,030m ³ /s	阿賀野川全流域で140mm(2日雨量)をこえる記録的な大雨をもたらした。 床上浸水2,589戸、床下浸水8,527戸、全壊流出120戸、半壊流出104戸、農地浸水10,203ha
S33.9.18 (台風21号)	8,930m ³ /s	阿賀野川上流域を中心に強い雨が降り続き、負傷者2名、床上浸水1,231戸、床下浸水1,128戸、全壊流出110戸、半壊流出160戸、農地浸水1,870haにおよんだ戦後最大洪水
S53.6.27 (梅雨前線)	7,870m ³ /s	阿賀野川流域全域にあたり記録的な降雨となり、特に阿賀野下流域の低平地を中心に甚大な被害をもたらした。床上浸水2,176戸、床下浸水5,572戸、全壊流出4戸、農地浸水11,027haにおよび甚大な被害となった。
S56.6.22 (梅雨前線)	7,370m ³ /s	停滞した温暖前線が新潟県を中心に集中的な大雨をもたらした。床上浸水194戸、床下浸水1,138戸、農地浸水2,791ha
S57.9.12 (台風18号)	6,360m ³ /s	阿賀野川上流域に被害が集中。 家屋全半壊流失1戸、家屋の浸水306戸、農地宅地の浸水490ha
H10.8.4 (梅雨前線)	4,210m ³ /s	新潟市では、時間雨量97mmを記録(観測史上最大) 新潟市中心部の内水被害や中小河川の氾濫など甚大な被害をもたらした。
H14.7.11 (台風6号)	5,720m ³ /s	破堤や浸水などの被害はなかったものの、床固や護岸等の河川工作物に大きな被害が発生。
H16.7.13 (梅雨前線)	7,620m ³ /s (速報値)	破堤や浸水などの被害はなかったものの、床固や根固ブロックの一部流出、堤防法面崩れ等の被害が発生。

昭和53年6月27日出水(馬下地点 7,870m³/s)



平成16年7月13日出水(馬下地点 7,620m³/s(速報値))



2 事業の概要

1) 事業の経緯

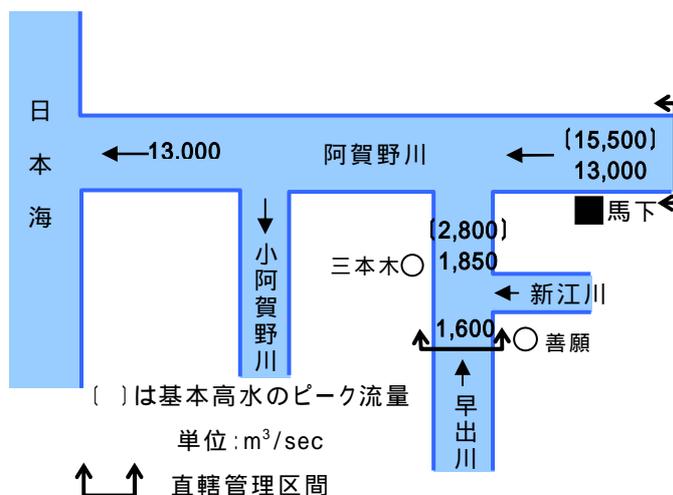
明治 17 年 (1884年)	直轄で阿賀野川改修(横越～小浮、低水路工事)着手、明治 37 年完了
大正 4 年 (1916年)	大正 2 年 8 月洪水(木津切れ)を契機に直轄編入(大正 4 年 6 月)第 1 期改修工事(計画流量 6,950m ³ /s、河口～馬下)として河道の整正、築堤、護岸工事に着手、ほぼ現在の河道が形づくられた(～昭和 8 年)
昭和 22 年 (1947年)	河床低下等の荒廃が進んだため第 2 期改修として常水路固定の護岸・水制工事に着手
昭和 38 年 (1963年)	計画流量を上回る昭和 31 年 7 月及び昭和 33 年 9 月の洪水により、暫定流量 9,000m ³ /s で河川改修を実施
昭和 41 年 4 月 (1966年)	一級河川に指定(直轄管理区間:河口～34.6k)
昭和 41 年 7 月 17 日 (1966年)	S41.7.17 水害において、加治川破堤による湛水を胡桃山地先(現在の胡桃山樋門)で阿賀野川本堤開削により排水
昭和 41 年 7 月 20 日 (1966年)	阿賀野川水系工事実施基本計画策定(昭和 33 年 9 月洪水により計画流量 11,000m ³ /s で河川改修を実施)
昭和 42 年 (1967年)	豊栄市高森地先に、新井郷川導水路及び胡桃山樋門を設置
昭和 53 年 (1978年)	昭和 53 年 6 月洪水で激特事業が採択。 (胡桃山排水機場暫定 30m ³ /s 着手、導水路改修)
昭和 57 年 7 月 (1982年)	激特事業で実施した胡桃山排水機場設置(暫定完成 30m ³ /s)、導水路改修完成
昭和 57 年 11 月 (1982年)	安野川水門設置(全体計画 3 門の内、1 門設置)
昭和 60 年 3 月 (1985年)	阿賀野川水系工事実施基本計画改定 (馬下地点で基本高水のピーク流量を 15,500 ³ /s、計画高水流量を 13,000m ³ /s に改定し、河川改修を実施)
平成 7 年 (1995年)	阿賀野川中流部の水衝部対策として横越地区着手。
平成 8 年 (1996年)	胡桃山排水機場を増設(20m ³ /s)、計 50m ³ /s が完成 太田川排水機場完成
平成 12 年 3 月 (2000年)	早出川捷水路完成
平成 15 年 (2003年)	灰塚地区水衝部対策に着手

2) 治水計画の概要

現計画は、昭和 60 年 3 月に策定された。計画の概要は以下のとおり。

計画規模	: 1/150 確率
計画雨量	: 223 mm/2日 (馬下上流域)
基本高水のピーク流量	: 15,500m ³ /s (馬下地点)
洪水調節施設による調節流量	: 2,500m ³ /s (馬下地点)
河道への配分流量	: 13,000m ³ /s (馬下地点)

阿賀野川流量配分図



馬下基準地点



3) 阿賀野川の改修計画について

川の器の確保 (弱小堤防、河道掘削)

阿賀野川は、ほぼ全川にわたり流下能力が不足しているため、堤防の新築、嵩上げ、拡幅、河道の掘削並びに床固めの改築を行い、川の器を確保する。

水衝部対策

阿賀野川は蛇行が著しく、洗掘により破堤すれば新潟市をはじめ甚大な被害が想定される。このため水衝部の護岸、水制を促進し、洪水の安全な流下を図る。

堤防の質的整備 (漏水、地震対策)

阿賀野川では旧河道に築堤されている箇所もあり、漏水により破堤する危険がある。これらを解消するため、堤防の質的整備を実施する。

支川早出川

洪水の安全な流下を図るため、捷水路の開削、引提、堤防の拡築及び掘削を実施し、水衝部には護岸を施工する。

内水対策

都市化の著しい低平地については、内水被害の軽減を図るため排水機場を整備する。

4) 改修による整備状況

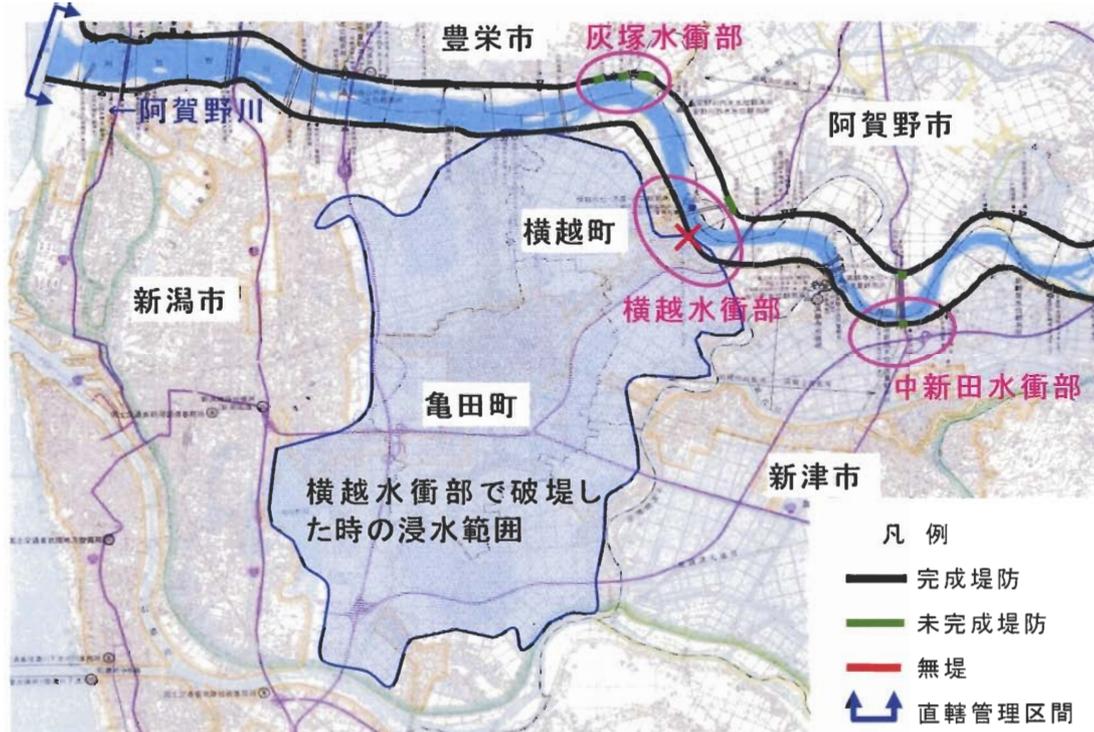
平成16年3月末の阿賀野川の直轄管理区間における堤防整備率(完成堤)は、約81%であり、漏水及び地震対策の必要な区間や弱小堤区間もある。

また、水衝部対策については、阿賀野川の3大水衝部のうち、破堤した場合の想定被害の大きい横越地区を実施中で、灰塚地区については平成15年度に着手、中新田地区については未実施である。

支川早出川は捷水路事業が完了している。

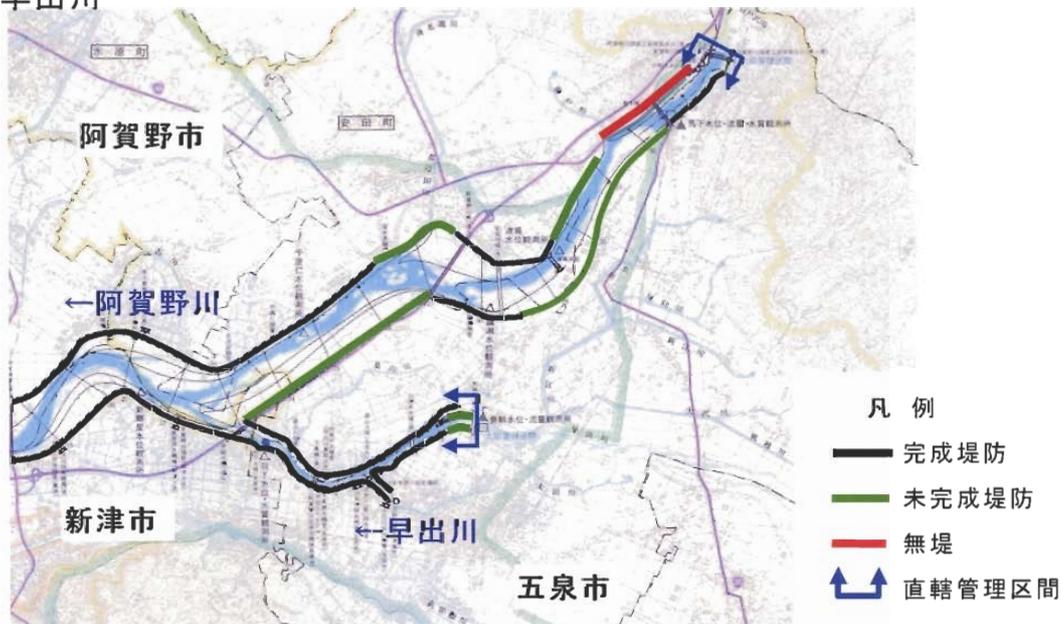
内水対策は、これまでに胡桃山排水機場及び太田川排水機場を整備した。

●阿賀野川(河口～中流部)



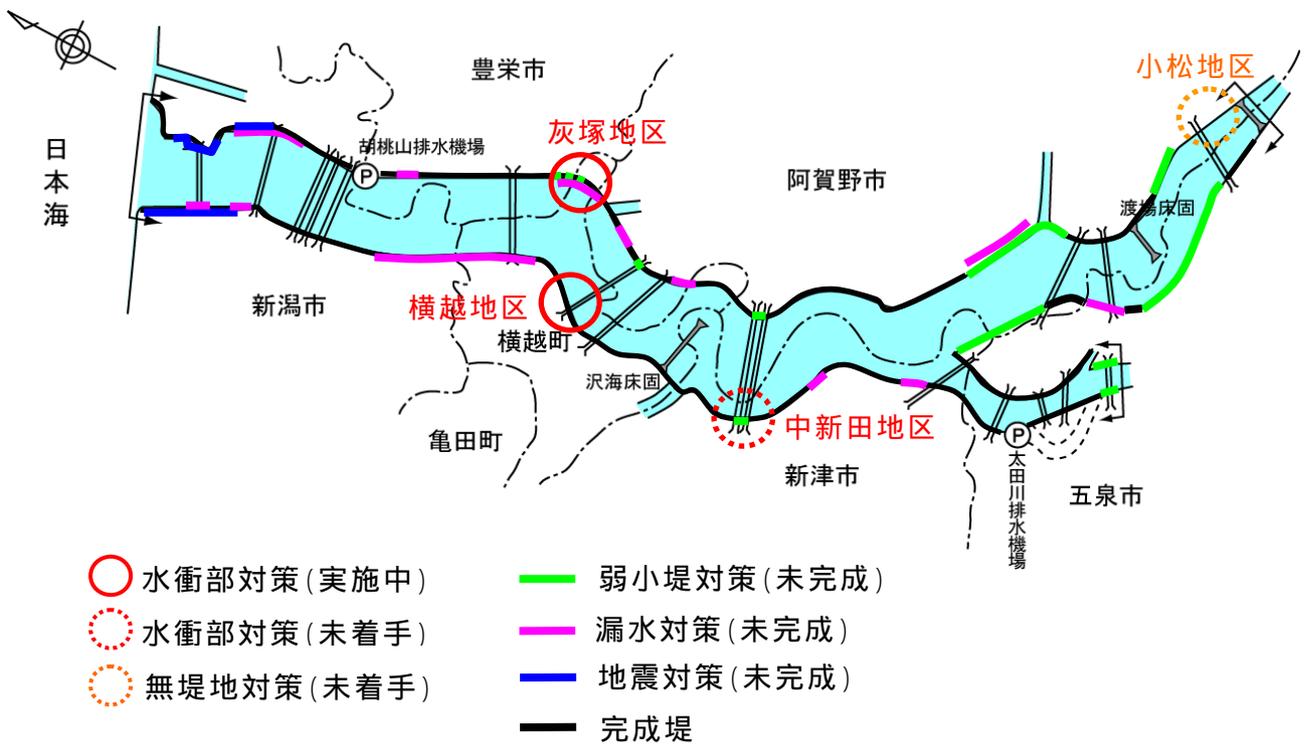
●阿賀野川(中～上流部)

●早出川



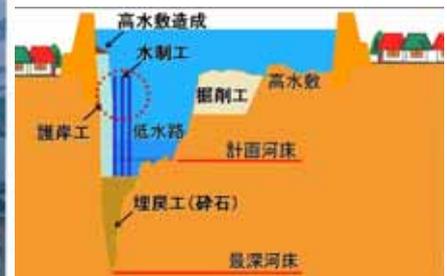
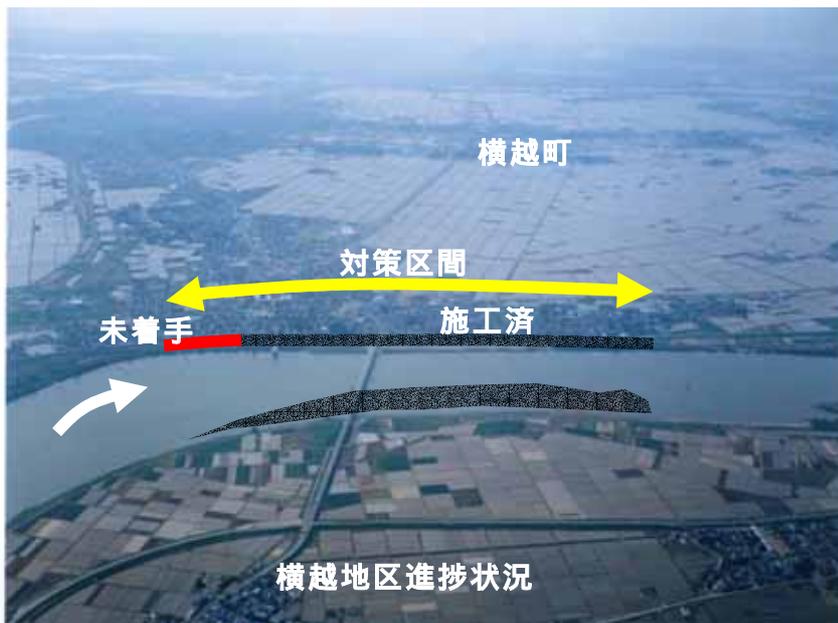
5) 現在実施中の主要事業の内容及び進捗状況

阿賀野川は低平な地形であるため、どこで破堤しても洪水流が想定氾濫域の大部分に広がる傾向がある。このため、水衝部等で発生している深掘れ対策により弱点部の補強を実施している。



水衝部対策(横越地区)

- ・事業着手:平成7年度～
- ・整備内容:横越地区の水衝部では、堤脚付近に深い局所洗掘が発生しており、護岸が危険な状態であることから、水制工、対岸高水敷の掘削により水当たりを弱める。また、堤防保護のため高水敷の造成、深掘れ箇所への埋め戻しをおこなう。
- ・進捗状況:対策箇所上流部の低水護岸・高水敷造成を実施している。
 全体計画延長:1.4km
 整備済み延長:1.1km (進捗率79%)



対策工横断面図

低水護岸工

施工前



施工後(平成16年3月)



水衝部下流側(低水護岸・高水敷造成施工後)

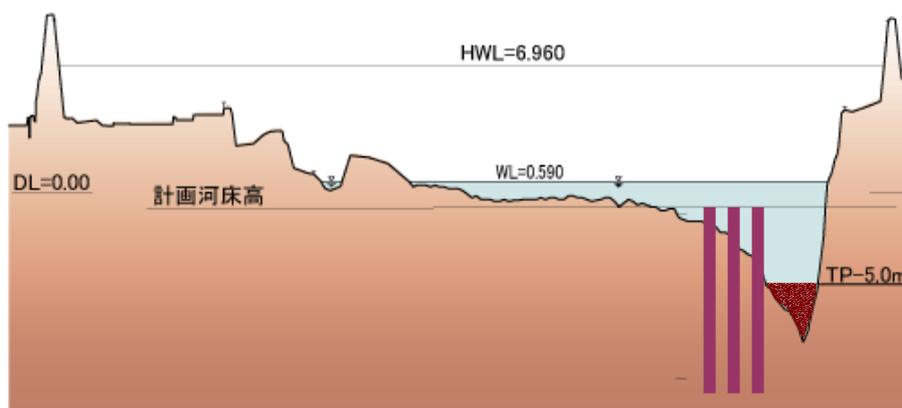


水衝部対策(灰塚地区)

- ・事業着手:平成15年度～
- ・整備内容:水衝部における洗掘の進行をふせぐため、深掘れ箇所の埋戻しと水制(ベーン工)をおこなう。
- ・進捗状況:深掘れ箇所に埋め戻しを実施し、今後は、水制(ベーン工)により深掘れ防止対策を実施する。



水制(ベーン工)標準横断面図



ベーン工:河床に鋼矢板を羽根状に打込み、深掘れの原因となる流れを調整する方法。

6) 現状での主な課題

洪水を安全に流す(川の器の確保と維持)

- ・**水衝部**: 河道の蛇行により屈曲の著しい箇所での深掘が進行しており、浸水被害が生じるおそれのある区間がある。
- ・**無堤部**: 堤防の未整備となっているため、浸水被害が生じるおそれのある区間がある。
- ・**堤防の拡幅、嵩上げ**: 堤防の高さ及び幅が不足しており、洪水時には越水や破堤により、浸水被害が生じるおそれのある区間がある。
- ・**堤防の質的整備**: 阿賀野川全川において、漏水対策、地震対策等が必要な箇所がある。

水 衝 部



無 堤 部



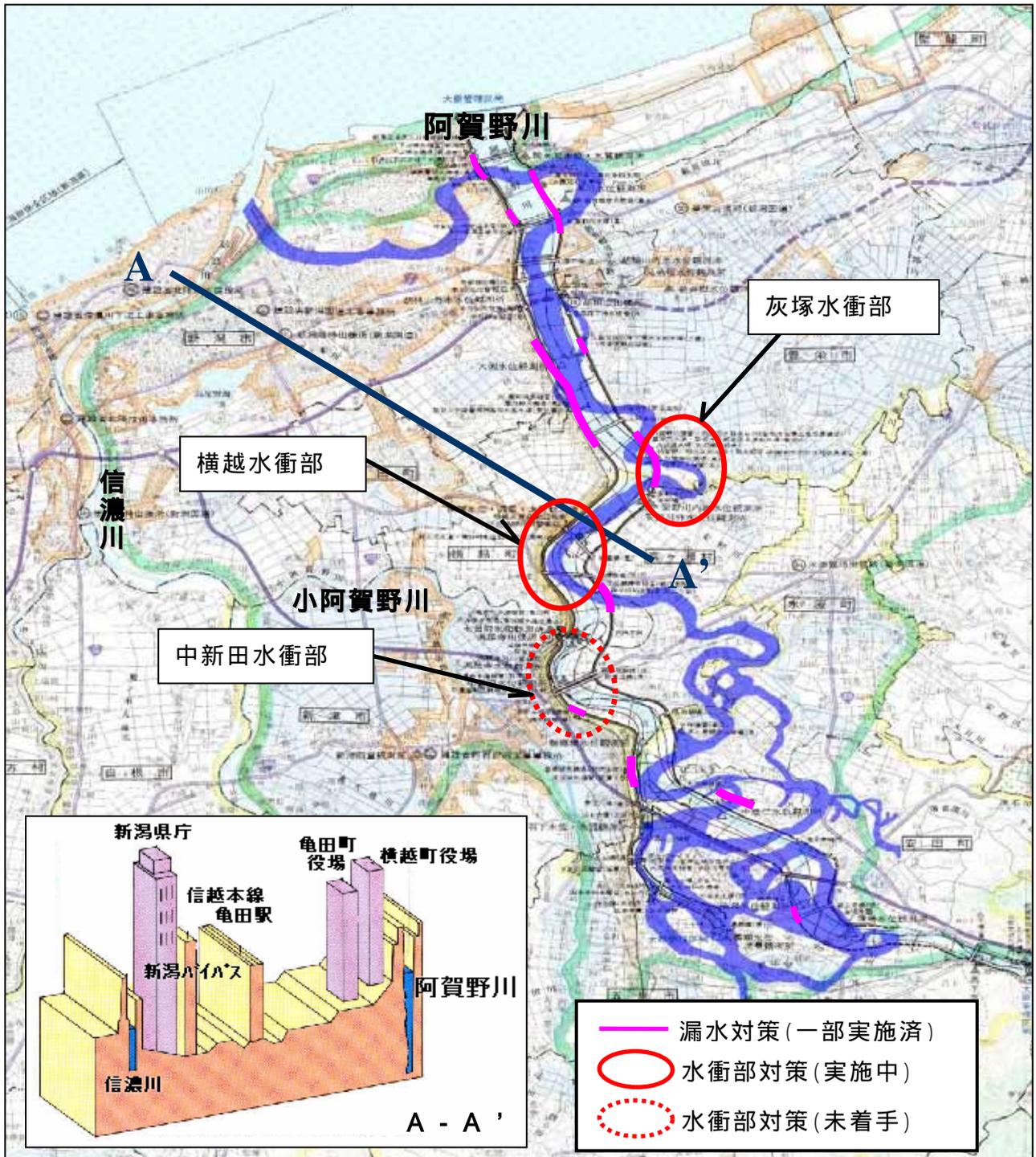
堤防断面不足



法崩れ箇所



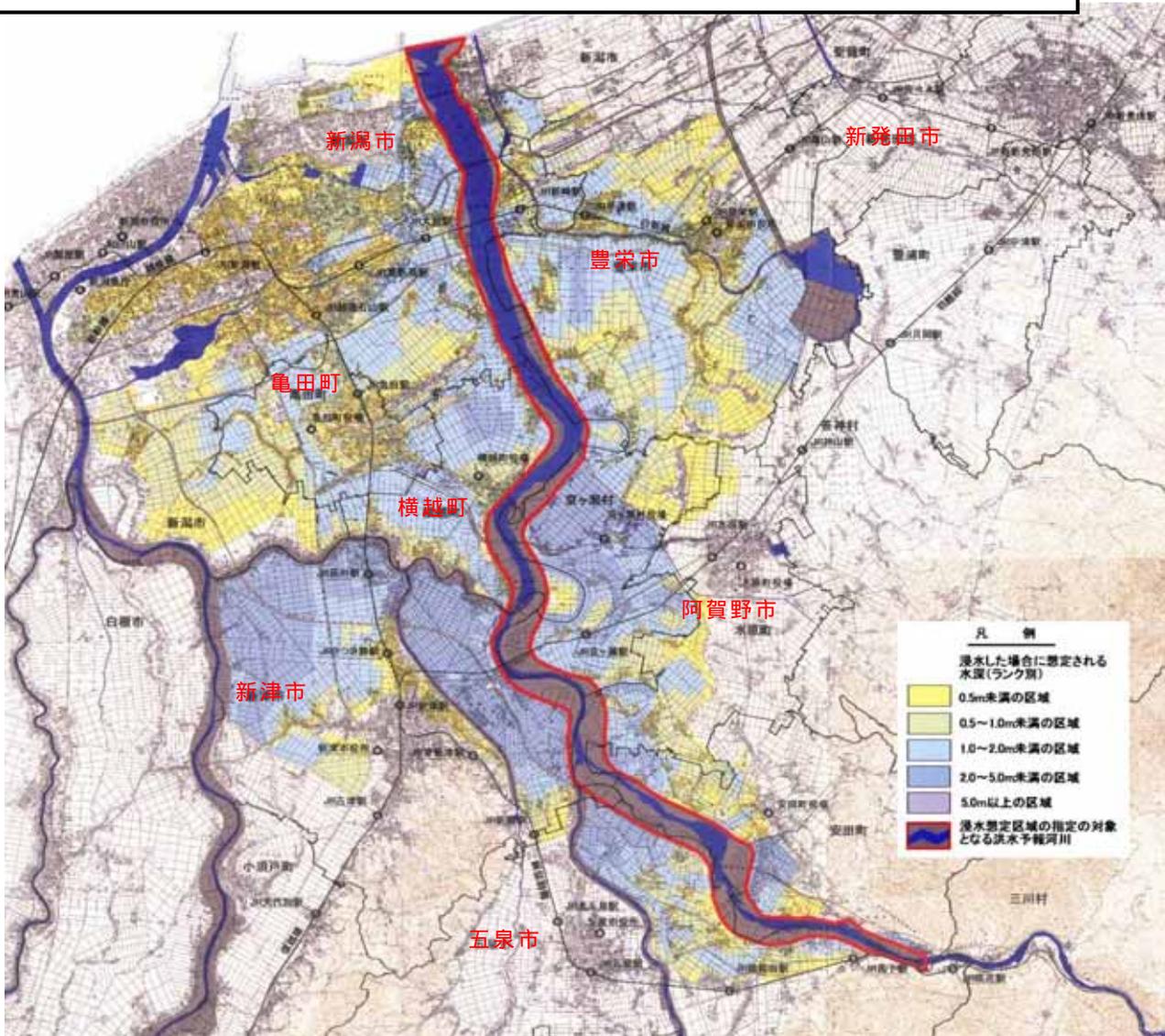
旧河道(1713年)～現河道への変遷



浸水想定区域図

阿賀野川では、現在の河道整備状況及び洪水調節施設の整備状況下で、洪水防御の基本となる概ね150年に1回程度起こる大雨(流域2日間総雨量223mm)が降った場合には、最大で、以下の浸水区域と浸水深が想定される。

阿賀野川浸水想定区域(水防法に基づき平成14年1月31日に指定・公表)



この図は、水防法の規定に基づき、阿賀野川水系阿賀野川の洪水予報区間について、浸水想定区域と当該地区が浸水した場合に想定される水深を示したものです。

この浸水区域と水深は、平成14年1月時点の阿賀野川の河道の整備状況、既設ダム等の洪水調節施設の状況等を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる降雨である概ね150年に一回程度起こる大雨(流域の2日間総雨量223mm)が降ったことにより阿賀野川が氾濫した場合の想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。

浸水区域と水深は、各破堤箇所毎のシミュレーション結果から最大区域、最大水深を包絡して作成したもので、最大の浸水想定を表しています。また、支川の氾濫、内水による氾濫は考慮していません。

3 事業の投資効果

1) 費用対効果

総費用 (C) = 5,743 億円 総便益 (B) = 3 兆 863 億円 $B / C = 5.4$

治水経済調査の基本的な考え方

堤防やダム等の治水施設の整備によってもたらされる経済的な便益や費用対効果を計測することを目的として実施。

治水施設の整備による便益

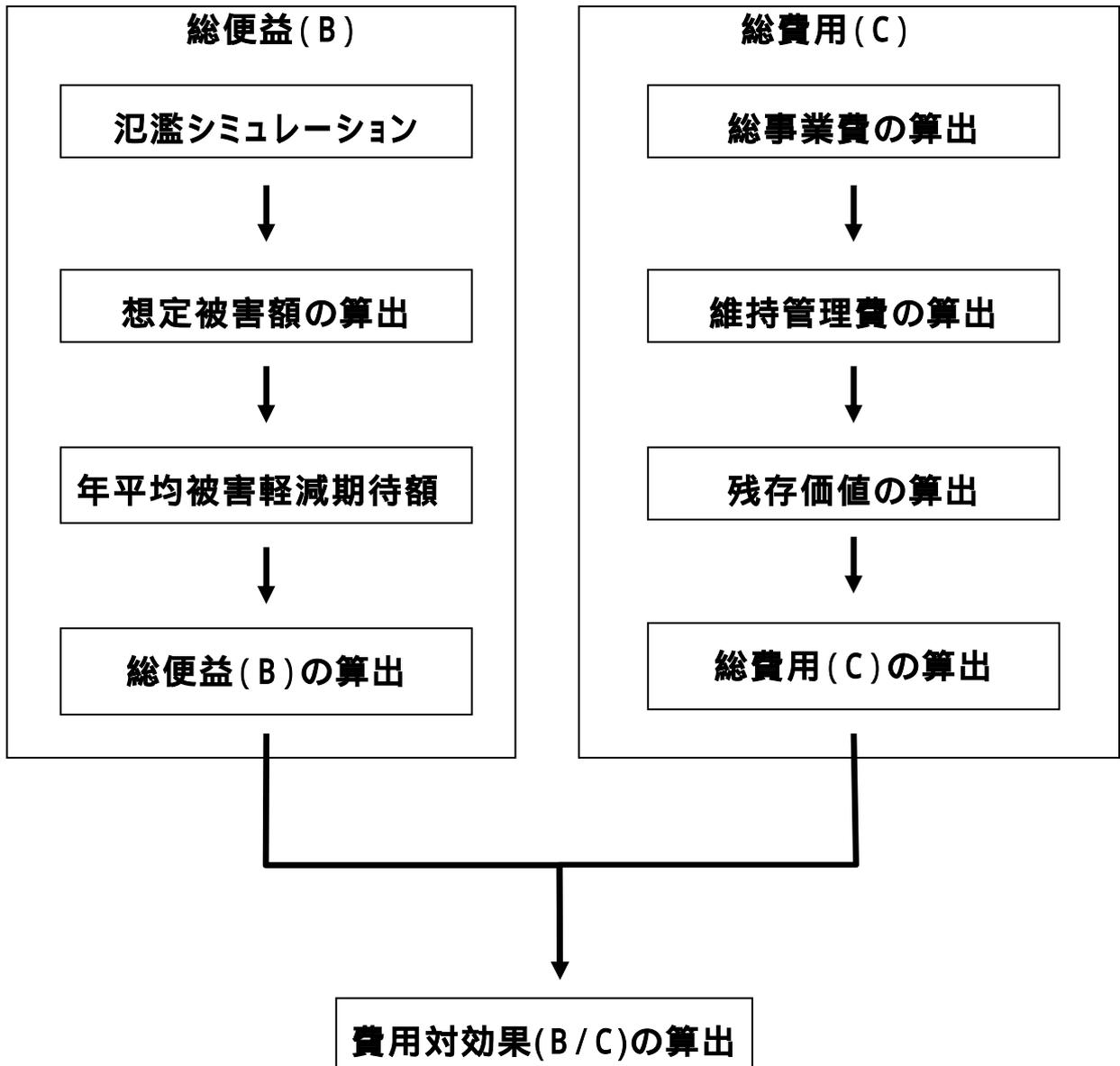
- ・水害により生じる人命被害と直接的または間接的な資産被害を軽減することによって生じる可処分所得の増加 (便益)
- ・水害が減少することによる土地の生産性向上に伴う便益
- ・治水安全度向上に伴う精神的な安心感

治水事業の主な効果

分類				効果(被害)の内容	
被害	直接被害	資産被害抑止効果	家屋	浸水による家屋等の被害	
			家庭用品	家財・自動車の浸水被害、ただし、美術品や貴金属等は算定していない	
			事業所償却資産	事業所固定資産のうち、土地・建物を除いた償却資産の浸水被害	
			事業所在庫資産	事業所在庫品の浸水被害	
			農漁家償却資産	農漁業生産に係わる農漁家の固定資産のうち、土地・建物を除いた償却資産の浸水被害	
			農漁家在庫資産	農漁家の在庫品の浸水被害	
		農産物被害		浸水による農作物の被害	
		公共土木施設等被害	道路、橋梁、下水道、都市施設、電力、ガス、水道、鉄道、電話、農地、農業用施設等	公共土木施設、公益事業施設、農地、水路等の農業用施設等の浸水被害	
		人身被害抑止効果			人命損傷
		被害防止	稼働被害抑止効果	営業停止被害	家計
事業所	浸水した事業所の生産の停止・停滞(生産高の減少)				
公共・公益サービス	公共・公益サービスの停止・停滞				
事後被害抑止効果	応急対策費用		家計	浸水世帯の清掃等の事後活動、飲料水等の代替品購入に伴う新たな出費等の被害	
			事業所	家計と同様の被害	
			国・地方公共団体	家計と同様の被害および市町村等が交付する緊急的な融資の利子や見舞金等	
	交通途絶による被害		道路、鉄道、空港、港湾等	道路や鉄道等の交通途絶に伴う周辺地域を含めた波及被害	
	ライフライン切断による波及被害		電力、水道、ガス、通信等	電力、ガス、水道等の供給停止に伴う周辺地域を含めた波及被害	
営業停止波及被害			中間製品の不足による周辺事業所の生産量の減少や病院等の公共・公益サービスの停止等による周辺地域を含めた波及被害		
精神的被害抑止効果	資産被害に伴うもの		資産の被害による精神的打撃		
	稼働被害に伴うもの		稼働被害に伴う精神的打撃		
	人身被害に伴うもの		人身被害に伴う精神的打撃		
	事後被害に伴うもの		清掃労働等による精神的打撃		
	波及被害に伴うもの		波及被害に伴う精神的打撃		
高度化便益				治水安全度の向上による地価の上昇等	

■ : 便益算定に計上している項目

費用対効果(B / C)の算出の流れ



治水経済調査を行うにあたっての想定

被害防止便益算定の際の想定

- 氾濫区域内の資産
- 水害から通常为社会経済活動に戻るための時間
- 破堤地点、洪水規模
- 被害防止便益の算定に用いる資産等の基礎数量や被害率等

治水施設の費用算定の際の想定

- 整備に要する期間、投資計画

総便益(B)の算出

氾濫シミュレーション

計画規模の洪水を含め、発生確率が異なる数洪水を選定し氾濫シミュレーションを実施し、想定氾濫区域を求める。(阿賀野川は、1/5,1/10,1/20,1/30,1/50,1/100,1/150)の発生確率で実施)

想定被害額の算出

氾濫シミュレーション結果に基づき、確率規模別の想定被害額を算出する。
直接被害
・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所等)
・農作物被害
・公共土木施設被害
間接被害
・営業停止被害
・家庭における応急対策費用
・事業所における応急対策費用

年平均被害軽減期待額

事業を実施しない場合と実施した場合の被害額の差分を被害軽減額とする。
確率規模別の被害軽減額にその洪水の生起確率を乗じて、計画対象規模(1/150)まで累計することにより、「年平均被害軽減期待額」を算出する。

総便益(B)の算出

事業期間 + 事業完了後50年間を評価対象期間として年被害軽減期待額の総額を総便益(B)とする。
なお、便益は年4%の割引率で割り引いて現在価値に評価する。
総便益(B) = 3兆863億円
・一般資産 1兆1,021億円
・農作物被害 233億円
・公共土木被害 1兆8,670億円
・間接被害 939億円

総費用(C)の算出

総費用についても、年4%の割引率で割引いて現在価値化する。

総事業費の算出

事業着手時点から治水施設完成までの総事業費を求める。

総事業費 = 4,994億円

維持管理費の算出

治水施設完成後、評価期間(50年間)の維持管理費を求める。(堤防の除草等の維持管理費、ポンプの運転経費や定期点検費用等)

維持管理費 = 826億円

残存価値の算出

堤防及び護岸等構造物、用地の残存価値をそれぞれ求める。(構造物以外の堤防及び低水路と護岸等の構造物、用地についてそれぞれ残存価値を求める。)

残存価値 = 77億円

総費用(C)の算出

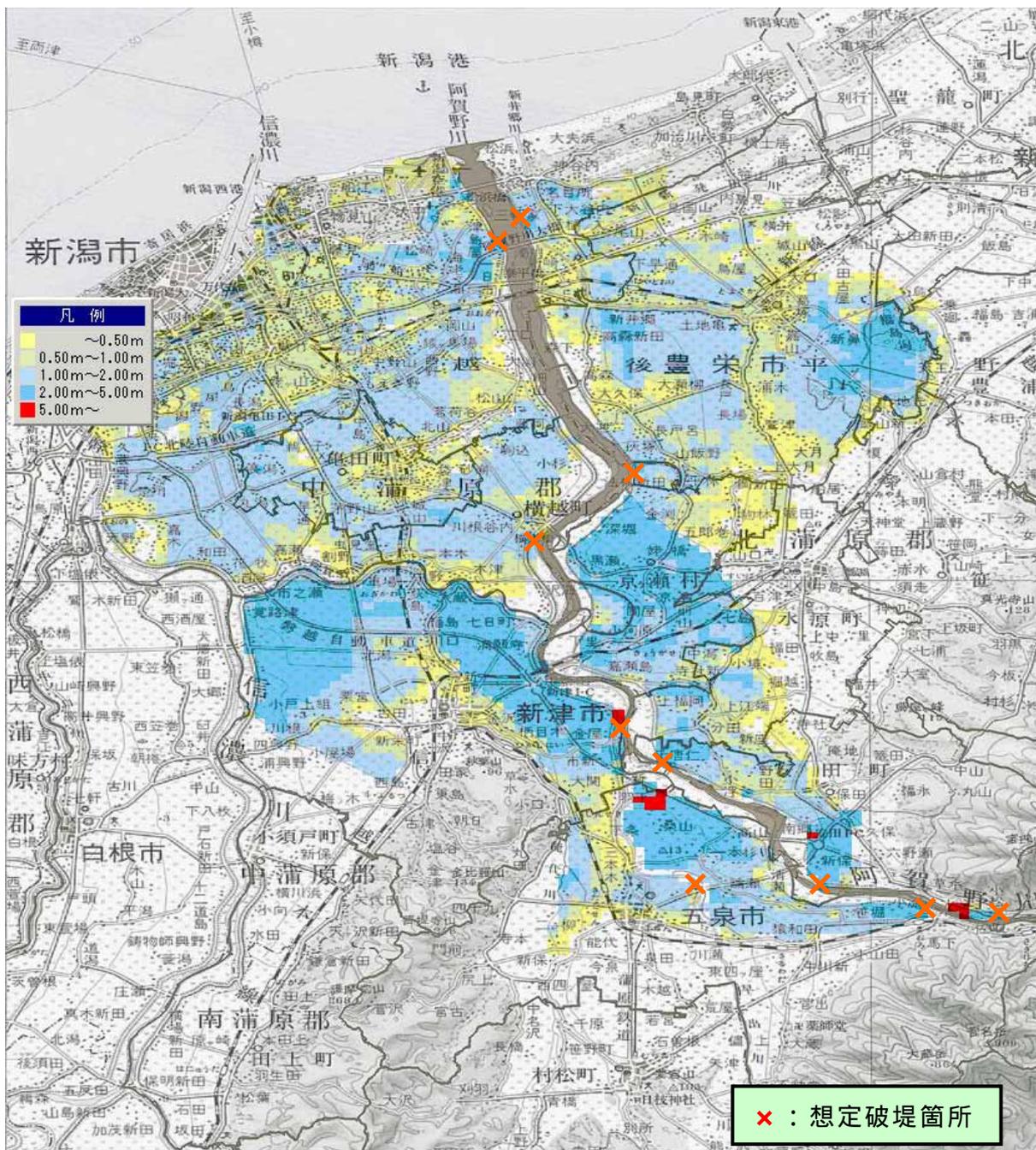
総費用(C) =

総事業費 + 維持管理費 - 残存価値

= 4,994 + 826 - 77 = 5,743億円

氾濫シミュレーション結果

阿賀野川(確率1 / 150、S60年の事業着手時点の整備状況の場合)



氾濫ブロック内の×印で破堤した場合の浸水想定区域図
 (流域を地形特性などから氾濫形態の異なる幾つかのブロック(氾濫ブロック)に分割し、そのブロック毎に、洪水被害額が最大となるような破堤箇所(想定破堤箇所)を一箇所ずつ選出し、そこで破堤した場合の、浸水想定区域図)

2) これまでに行った事業の効果

早出川捷水路事業(平成 11 年度完成)

早出川は、五泉市街地付近で大きく蛇行し川幅が狭くなっていたことから、昭和 33 年、41 年、42 年、44 年と相次ぐ出水により住民は大きな被害を受けました。このため平成元年より捷水路事業に着手し、平成 12 年 3 月に完成。

平成 16 年 7 月 13 日には、日雨量 267mm(長峰観測所)を記録する豪雨があったにもかかわらず早出川流域の浸水被害は発生しなかった。

過去の洪水被害 (旧河道三本木橋)



昭和 42 年 8 月洪水



昭和 44 年 8 月洪水

旧河道 (S 55 年)



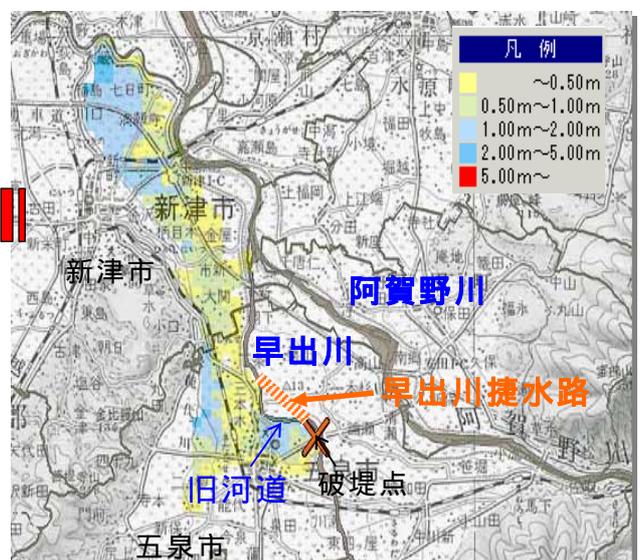
捷水路 (H 8 年)



捷水路は市民の憩いの場として利用。

旧河道で H16 年 7 月 13 日規模の洪水が発生し破堤した場合の**氾濫シミュレーション結果**

浸水面積	約 2,000ha
浸水家屋	約 4,500 戸
被害額	約 1,400 億円



捷水路の効果により

被害なし

胡桃山排水機場(平成8年度完成)

S53年の内水被害を契機に、直轄河川激甚災害特別緊急事業として整備が行われ、H8年度に総排出量 50m³/s の胡桃山排水機場が完成しました。以後、H10、H14年の出水では新井郷川流域の治水に大きな効果を発揮し被害を軽減しました。

過去の水害による浸水状況(豊栄市)



昭和41年7月洪水



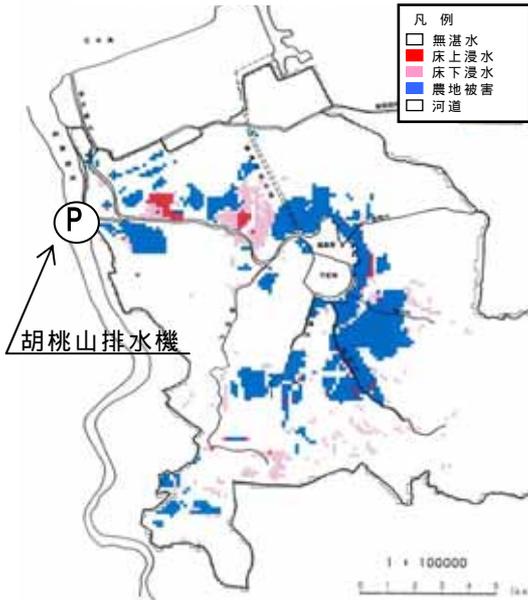
胡桃山排水機場着手前
(昭和53年洪水時)



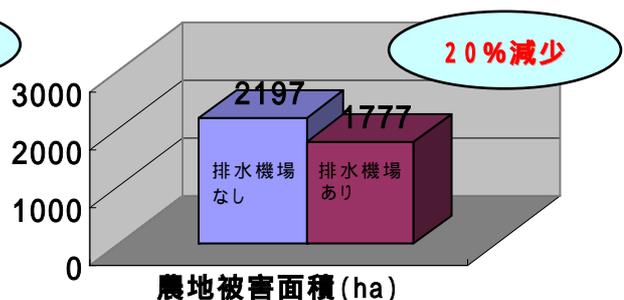
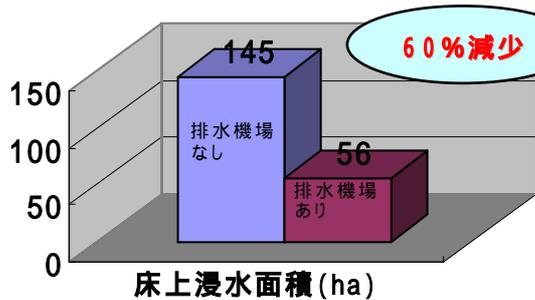
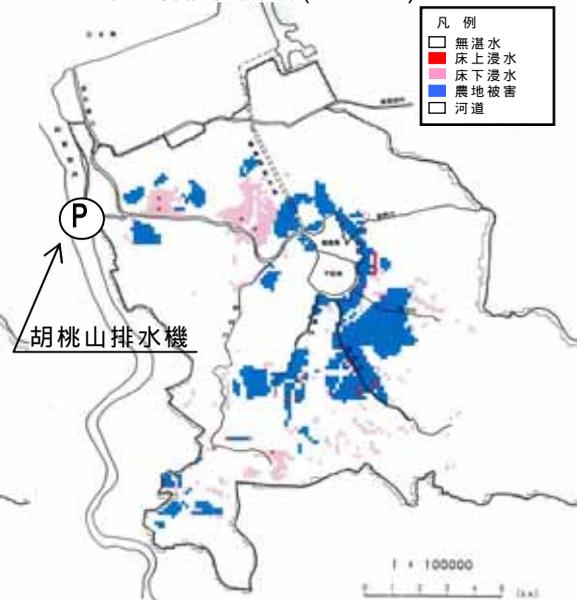
胡桃山排水機場完成

H10.8.4洪水 胡桃山排水機場の効果

胡桃山排水機場なし



胡桃山排水機場(50m³/s)あり

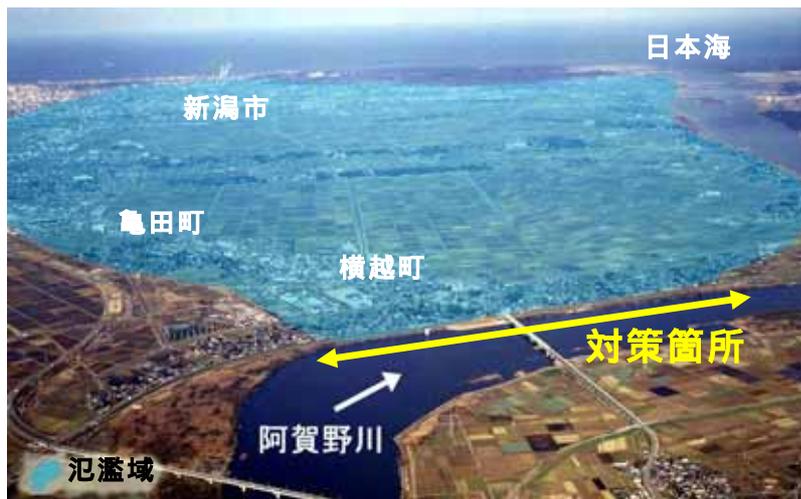


農地被害は30cm以上の湛水が24時間以上経過したものを対象

横越地区水衝部対策事業

阿賀野川中流部(10km~20km付近)は蛇行が激しく、大きな彎曲部がつづいていることから局所洗掘が生じている。これらの水衝部では、堤脚保護のために杭出し水制、根固ブロックが設置されているが、出水の度に被害を受け、河道の維持管理に支障をきたしていた。

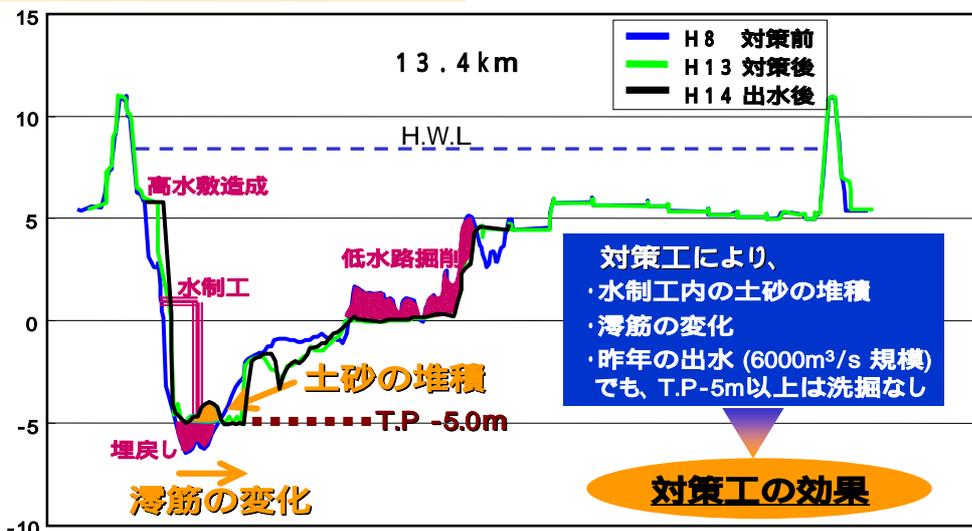
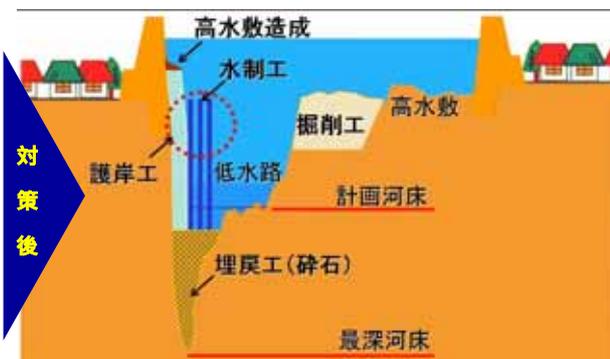
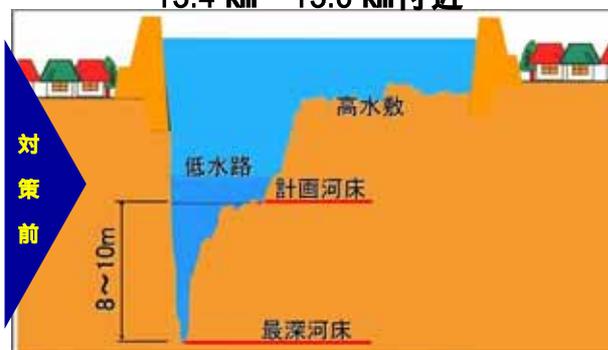
特に、横越地区においては、局所洗掘が進行しており、計画河床より8m~10mも深掘れが発生し危険な状況であった。また、背後地には、新潟市等の主要都市をかかえており被害範囲が大きくなることから対策を実施中である。



横越地区で破堤した場合の被害

被害人口	73,767人
浸水面積	6,539ha
被害額	2,088億円

13.4 km ~ 13.6 km 付近



3) コスト縮減の取り組み

低水護岸の施工にあたり、従来のコンクリートブロックではなく「かごマット」を採用しコスト縮減を図るとともに、コンクリートを使用しないことで生態系に優しい川づくりを実施している。

さらに、護岸等の洗掘防止対策として間伐材を利用した粗朶沈床工を採用し、生物の生息環境を得ると共にコスト縮減に取り組んでいる。



かごマット施工状況



粗朶沈床施工状況(沈設前)

4 事業を巡る社会情勢等

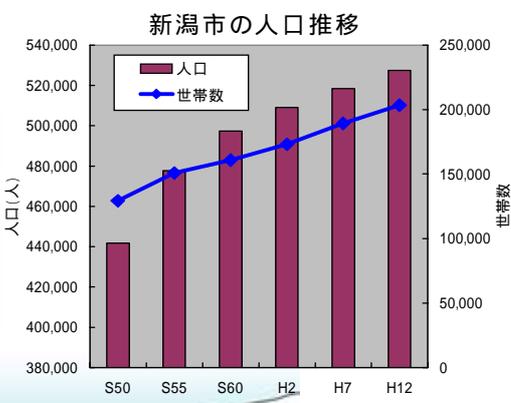
1) 地域の開発状況

阿賀野川流域には、国際空港・港湾や新幹線・高速道路など広域交通体系の結節点としての拠点性、地域的優位性をあわせ持ち、また日本海側最大の人口を擁する新潟市や新潟市のベットタウンとして人口の増加が著しい豊栄市、新津市などを有する。

また、阿賀野川流域全体が新潟米や果物、魚介類などの農産物、水産品の生産が盛んであり、これを利用した日本酒や米菓といった加工食品の生産も盛んである。

新潟市は2002ワールドカップ開催に合わせて社会資本の大幅な整備を進めてきたところであり、今後は2005年の市町村合併により本州日本海側で最初の政令指定都市を目指し一層の発展が期待できる地域である。

平成 17 年 3 月 21 日合併により人口 78 万の新潟市誕生。本州日本海側で最初の政令指定都市を目指す。



平成 16 年 4 月に 4 町村の合併により人口 48,000 人の阿賀野市が誕生。

平成 17 年 1 月 1 日の合併に向けて協議中。

2) 地域の協力体制

流域沿川市町村等によって構成される組織によって、地域を洪水被害から守るため、治水事業の推進に関する積極的な活動を行っている。

・「阿賀野川治水協会」(S24.4)

新潟市、新津市、五泉市、豊栄市、阿賀野市(旧:安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村)横越町、亀田町)及び亀田郷土地改良区、新津郷土地改良区、新津東土地改良区、阿賀野川土地改良区

3) 関連事業との整合

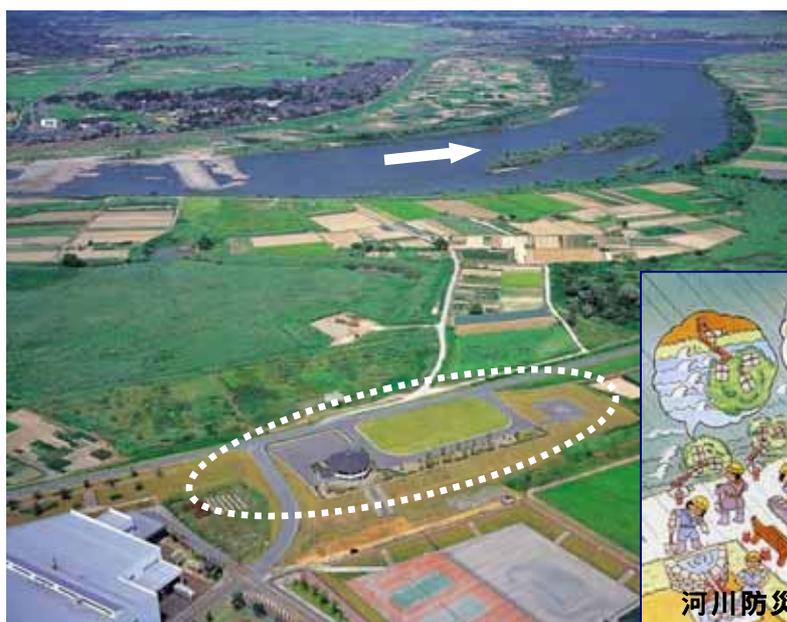
京ヶ瀬防災ステーション

京ヶ瀬防災ステーションは、阿賀野市下里において、洪水時には、水防及び緊急復旧の活動基地・ヘリポート等として利用される。また、災害時における備蓄スペースとしても活用される。平水時には、防災ステーションの上流側に位置する桜づつみとともに、阿賀野川の親水空間として地域の人々の憩いの場となっている。

京ヶ瀬防災ステーション



京ヶ瀬防災ステーションと桜づつみ



松浜水辺の楽校

新潟市松浜地先では、子どもたちの水辺での遊び場や、野生の生き物たちとのふれあいの場として水辺の楽校が整備されおり、地域の皆さんが一体となって子どもたちの活動を支えていく応援団が結成されている。

松浜水辺の楽校



水生生物調査状況



ハザードマップ整備状況

水防法に基づき、阿賀野川流域市町村に、阿賀野川浸水想定区域図の情報を提供している。また、市町村長は、その浸水想定区域図により洪水時に洪水予報の伝達や避難場所等について、市民に周知させるハザードマップを整備している。

ハザードマップ作成状況

河川名	市町村名	作成予定時期	
阿賀野川	横越町	H14年3月公表済み	
	亀田町	H14年3月公表済み	
	阿賀野市	旧安田町	H15年4月公表済み
		旧京ヶ瀬村	H13年5月公表済み
		旧水原町	町村合併後 17年度目途
		旧笹神村	予定なし
	新津市	H16年7月公表済み	
	五泉市	H16年度公表予定	
	豊栄市	H16年度公表予定	
	新潟市	H17年度公表予定	

5 対応方針(原案)

事業の必要性等に関する視点:継続が妥当と判断できる

- ・阿賀野川は低平な地形条件と氾濫域の資産の増大から氾濫時の被害が甚大になることが想定されることから、今後とも洪水に対する安全度の向上を図るため、堤防整備、河道掘削、護岸・水制の整備を進める必要がある。
- ・さらに、事業の実施にあたっては、想定される氾濫形態や背後地の資産・土地利用を総合的に勘案して、地域と連携し、環境学習の場、地域の連携拠点、及び災害時の防災拠点等の整備を推進する。
- ・また、災害時における自治体や地域の避難誘導體制の整備、ハザードマップの作成を支援する。
- ・河川改修事業を行った場合の費用対効果は5.4である。

事業の進捗の見込みの視点:継続が妥当と判断できる

- ・阿賀野川の完成堤防の整備率は81%であり、これまで危険な箇所から順次整備進捗を図ってきた。現在は、緩流河川の特徴である蛇行特性により屈曲の著しい箇所での深掘れ対策として水衝部対策を重点的に整備を実施している。治水事業の推進に対する地元からの強い要望もあり、今後も引き続き計画的に事業を推進し、進捗を図ることとしている。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点: 、 の視点で見直しを図る必要がないと判断できる

- ・ 、 の各視点で継続が妥当と判断できるが、事業実施にあたっては、新技術、建設副産物や間伐材の利用等により一層の建設コスト縮減に努める。

対応方針(原案) 事業継続

(理由)

阿賀野川の防御対象氾濫区域内の人口は約60万人におよび、氾濫区域内に新潟市、新津市、五泉市、豊栄市、阿賀野市の中心市街地が含まれ、これら人命、財産を洪水被害から防御する阿賀野川河川改修事業は県都および県央地域の発展の基盤となる根幹的的社会資本整備事業である。安全・安心な川づくりについて、地域から早期完成が求められており、また事業実施にあたっては地域の関連事業との整合を図りながら実施している。

従って、本事業は継続が妥当である。